

令和2年9月29日

札幌地区 小松 祐也

2020 北海道レフェリーアカデミー第6回（2019/2020 第16回）事業報告書

1. 日時 2020年9月20日(日)・21日(月)
2. 開催場所：東山公園陸上競技場、岩見沢市生涯学習センター、苫小牧市緑ヶ丘サッカー場
3. 参加者 審判員：小松祐也、田口平蔵、高橋海星、牧田隆史

インストラクター：古曾部統太郎 氏、今川一輔 氏、岡田渉 氏

4. 内容

【9月20日】10:00 試合実践① 北海道サッカーリーグ

北蹴会岩見沢 vs 新得フットボールクラブ R小松 A1 田口

自己分析→些細な接触のファウルを一貫して取らなかった為、試合の温度が高かった。レフェリーと選

手との温度差に終始気付く事ができず、激しいプレーが起こるシーンがあり、警告が多くなっ

た。これからの試合では、選手の反応やチームの特徴などに早めに気付けるように意識してい

たい。具体的に、接触後の選手の反応、アウトオブプレー時の選手の表情、全体の雰囲気など。

I N S 分析→判定が受け容れられなかった理由として、レフェリーの「選手がもっとタフにプレーをするだ

ろう」という思い込みで判定基準が高くなってしまったこと。両チームの特徴に合わせて判定基

準を合わせていくことによって、判定は受け容れやすくなる。

12:00 移動・昼食

13:00 試合振り返り

14:00 試合観戦 道央ブロックリーグ サンクFCくりやま vs B I G 1 サッカークラブ R 木島 栄 氏

小松→個人的な感想としてまず、試合を完全に支配しゲームをコントロールしていた。その要因として

「強さ」が感じられた。具体的に、毅然とした態度や笛の長さ、選手とのコミュニケーションの取

り方など。現在アカデミーでは、「強さ」、「気付き」、「謙虚」をテーマに掲げているが、その内の一

つを生で見る事ができ、これからの審判活動に参考にさせて頂き、励んでいきたいと思う。



【9月21日】

10:00 試合実践② U18 道南ブロックリーグ 北海道栄 VS 苫小牧工業 R 牧田

自己分析→前回のアカデミーで気付いた、ポジショニングにおける課題を意識し、よく見極めるために自分がやるべきことをどんどんチャレンジすることができ、良い感触を得ている。一つのサボりがのちに自分の首を絞めるということを実感した今、引き続きこの試合で得た良い感触を維持できるように取り組み続けたい。

I N S 分析→前回の試合で出た、ポジショニングにおける課題を直ちに改善できていた。ただ、ヘディングの競り合いの見極めにおいて、位置関係や優先権などから素早く判断する力がまだ足りない。そのために、より「見て判断する」ために自らがやるべきことを整理すべきである。

12:10 試合実践③ U18 道南ブロックリーグ 駒沢苫小牧 V S 浦河 SC R 田口 A1 小松

自己分析→前半のファーストファウルは、状況が大きな攻撃となるチャンスであったため警告は必要であった。同じような場面が前半 18 分にもあり、こちらは正しく警告を示すことができたが、ファーストファウルとの整合性をとることを考えなければいけなかった。PK の判断は適切に行うことができた。また、前回のアカデミーの試合よりも動き出しがスムーズだった。前半 19 分のキーパーのパントキックからのカウンターも受け手の選手の動き出しを予測して動き出すことができた。ただ、先取りが出来ていたものの、その後の動きが止まっていることも多く、先取りをし終えても次の争点に動けるようにステップを踏むなど次の動きへの準備を怠らないようにする。

I N S 分析→前半 18 分駒大 68 の警告、後半 14 分の浦河 11 がペナルティーエリア内でのトリッピングによる PK の判断は適切で評価できるものであった。本人の課題としてあげた前半 3 分の浦河 2 のホールディングは、警告が考えられる状況であった。自身の課題に向き合っている成果なのかもしれないが、以前に比べて動き出しにスムーズ感が出ていると感じた。前半 19 分の Sprint は評価できるものであり、後半 14 分の PK の判断もペナルティーエリアの内か外の際どい場面でも、適切なポジションで判断していたことは成長の証だと考えられる。

14:20 試合実践④ U18 道南ブロックリーグ 静内 V S 苫小牧東 R 高橋

自己分析→課題であった優先権がどちらの選手にあるのかが接触がある直前まで分からない状況の見極めが上手くできた。その結果ファウルの取りこぼしはなかったと思う。次へのステップとして見極めたものをマネジメントに活かす必要がある。動きとポジショニングでは、5分30秒のシーンで紫の選手がボールをもって右側に蹴ろうとしたアクションがあった時にはその方向へ動き出すことで長い距離のスプリントをしなくてもよかったのではないかなと思う。

I N S 分析→キーインシデントになるようなファウルの取りこぼしや出来事はなかった。きちんとファウルは取れていたが前半1分のファーストファウルは、ヘディングしようとした選手に足を高く上げて接触が起きた。チャレンジの方法が少し危険であったため最低でも注意が必要なのではないか。試合の安全性を担保するのはレフェリーにしかできない仕事である。ゴールドキック時のポジションが全体的に内側を取っていた。広い視野で副審を挟んで監視するためにも外側を取る方がより良い角度と距離で監視ができるのではないかな。

16:20 試合振り返り

16:50 諸連絡・解散

